

高知放送

活動名	高知放送 70 周年記念事業「土佐の昔話」読み聞かせ
実施期間	令和 5 年 7 月 14 日、11 月 8 日
実施回数	会場 2 回
ネット配信期間	令和 5 年 8 月 2 日～令和 6 年 3 月 31 日
ネット配信作品数	4 本

【事業実施の成果・課題】

高知市内の小規模校を選び、計 2 回実施した。テーマは「土佐弁で書かれた高知の昔話を子どもたちに知ってもらふ」こと。地元にもたくさんの民間伝承による昔話があることと、高知出身のアナウンサーに講師を担当してもらふことで、例えば「昔まっこう猿まっこう」という土佐の昔話の最後に登場する独特の言い回しなどを子どもたちに知ってもらふこともできたと思う。また土佐弁による昔話も子どもたちには新鮮に映ったのではないだろうか。

大規模校であれば子どもたちと絵本の距離が遠くなり、子どもたちの視線は届かなくなってしまう。多人数を相手にした読み聞かせの場合、「絵」に頼らずお話だけのものでも実施するということも考えたと思う。

また、読み聞かせの実施に当たり、出版社との著作権料で予算と折り合わない側面もあった。今回は著作権料を請求されないものを選んだが、次回以降の課題だと感じた。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<猪頭大輔（東京支社連絡担当者）>

選んだ本が高知県内の民話を集めた絵本だったため、読み聞かせ担当の井上アナウンサーの周りを子どもたちが取り囲んで、目をキラキラさせながら、時に大笑いしながら熱心に聞き入っている姿が印象的だった。

<井上琢巳（高知放送アナウンサー）>

小学 3 年生 15 人に、土佐の民話を披露しました。印象に残ったのは、児童たちが「民話」を読む機会が少ないということで、保護者から読んでもらった経験がない、または少ないということでした。絵というよりは「読んで聞かせる」ことに力点を置いた作品でしたが、作品によって「しっかり耳をすます」「笑い声をあげてリアクション」といった反応が返ってきたので、読み手としては、うれしい反応でした。作品一つひとつ感想をもらいましたが、次から次に児童の手が挙がり、自分の感じたことを一生懸命言葉にしてくれました。短い作品を 3 つ紹介しましたが、児童たちの感想や気づきの発表の時間も充実していて、45 分の読み聞かせ授業もあっという間に終了。児童からは、また読み聞かせに来てほしいという言葉をもらいました。（土佐山学舎にて）

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

＜土佐山学舎 福井佳織校長＞

土佐弁での読み聞かせありがとうございました。子どもたちがこれから高知県以外に出たり、世界に出ていく時にも、地元の言葉や文化を大事にしてほしいなと思う。

＜高知市立義務教育学校 土佐山学舎 3 年生＞

・この前の読みきかせで土佐弁で昔の本だったので、昔の本をあまり読まないで昔のことの勉強になったのでよかったです。

・はじめの字を読んで、「。」がついたら 1 秒ぐらい止まってつぎのことばを言うのがいいところだなと思いました。わたしがみんなに読みきかせとか、本を読むときにまねしてみたいなと思いました。ゆっくりと読んでいたので、すごおく話の内ようが分かりやすかったです。もじゅうたぬきを自分で、読んでみたいなと思いました。

・わたしは、さいしょに読んでくださった「お花とどろぼう」が面白かったです。なぜかというとお花がおつかいに行ったときに、女中さんがお面をおににかえて、お花がかんちがいて、どろぼうにりょうりを作れっていわれて、目がしみるからおにの面をかぶってりょうりをしていたらどろぼうが帰ってきてびっくりしてにげだした。そして、そこにあった宝をみんなに分けてすごいい子だと思ったからです。

土佐弁が入った本を自分でまた読んでみたいです。

・たくみさんに読んでもらった本に書いていた土佐弁が知らない土佐弁もあったので勉強になりました。本の主人公がみんなやさしくていいなと思いました。「もじゅうたぬき」のたぬきはたすけてもらってしっかりおれいをしていたのがすごかったです。ふつうのお話よりたぬきがやさしいのに気づきました。

・たくみさんが高知のむかし話を読んでくれて私ははじめて聞いたので聞けてよかったです。

「よみきかせ」のなかでも土佐弁がいろいろあって土佐弁が知れたのでよかったです。もっとわたしは土佐のむかし話を読んでみたいです。

・たからのゲタのごへいがこばんをとっている時、どんどん小さくなっていくことが気づいているのか、思いました。本を読んでくれて分かりやすい声でした。ぼくもまねしたいです。

＜高知市立 五台山小学校 3 年生担任 細木早紀＞

子どもたちは、普段自分たちの使っている言葉を意識していなかったようで、事前の学級でのやり取りの中で「土佐弁って何？」という反応が返ってきていました。井上アナのお話を聞くことで「あ～、知っちゃう」と思う言葉がたくさんあったようです。だんだんとその土地ならではの言葉がうすくなっている印象が強い昨今、このような機会があることで土佐弁や郷土の魅力を子どもたちに伝えていく良い機会になると感じました。今回は、ありがとうございました。

＜高知市立 五台山小学校 3 年生＞

・アナウンサーはいろんなところに気を付けていると分かりました。それは、発音を丁寧にしていたことです。その中でも、特におもしろかったのは「むかしまっこう、さるまっこう」です。この言葉は初めて聞きました。楽しかったのでまた来てほしいです。

・今日、井上たくみアナウンサーが来て土佐弁の言葉がいっぱい出てくる本を読んでもくれました。いろいろな土佐弁を聞きました。中には聞いたことのない土佐弁もありました。いっぱい土佐弁が聞けて良かったです。むかしまっこう、さるまっこう。

- ・今日、たくみアナウンサーが来てくれました。たくみさんの声がころころ変わっていて、工夫をして声を出していたのがすごかったし、面白かったです。今日の土佐弁の本で好きなのは、「化けたぬき」です。わけは、たぬきがいろんな人たちに化けて、人間に簡単に捕まるところが面白かったからです。
- ・私は、土佐弁をよく知らないけど、聞いたことがある土佐弁や聞いたことのない土佐弁がたくさんあって面白かったです。
- ・読み聞かせを聞いて思ったことは、土佐弁にはこんな言葉があるんだなあということです。私が面白いと思ったのは、傘シリーズやたぬきシリーズです。初めて聞く土佐弁もありました。土佐弁の本を読んだ最後に「むかしまっこう、さるまっこう」ということも知りました。また、井上アナウンサーに土佐弁のお話を読んでもらいたいです。